

総務文教委員会会議録

開催年月日	平成28年 7月25日(月)	場 所	議会委員会室
案 件	・事務調査第1号「学校教育と地域との関わりについて」		
出席委員	萩原委員長、関野副委員長、岡本委員、天日委員、渋谷委員、後藤委員		
欠席委員	—	事務局	倉本
オブザーバー	—	傍聴者	
説明員	—		
開会時刻	13時28分	実会議時間	00時間08分
		休憩時間	02時間20分
閉会時刻	15時56分	延会議時間	02時間28分
次回日程	8月12日(金) 10:00～		
要点記録	<p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務調査第1号「学校教育と地域との関わりについて」 ○都市事例調査について意見交換 <p>〈志摩市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールを導入する前段に、「支える会」という組織が立ち上がっており、導入の素地があった。 ・コミュニティ・スクールは学校運営の中で学校へのクレーム対応という視点で始まった。学校に意見を言っただけの方を運営に巻き込み、よりよい学校づくりを目指した。 ・時間はかかるかもしれないが、準備期間に住民の意見を聞いていた。 ・地域で子どもを見守る姿勢があったので、富良野市と似たような環境だったと感じた。 ・特別、難しいことをしているということではなく、導入までに取り組んできたことを体系化している。 <p>〈瀬戸市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習林の関係で調査をしてきたので、志摩市、豊田市、一宮市とは切り離して意見交換をし、取りまとめていきたい。 <p>〈豊田市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田市版コミュニティ・スクールということで、中学校が主体となって取り組んでいる。 ・小学校は地域の方が入ってきて、中学校は地域に出向いていく、という流れがあった。 ・まちづくりのためにコミュニティ・スクールを利用しているように感じた。 ・学校と地域を結ぶ、地域コーディネーターの適任者を探すことに、 		

	<p>苦慮しているようであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの姿を地域で共有する」という姿勢が印象に残った。 ・コミュニティ・スクールの導入によって、小学校と中学校の接続が、スムーズになった。 ・中学校区で実施することによって、地域の人材を学校間で共有し、連携を行っていた。 <p>〈一宮市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育推進プランに位置づけして、コミュニティ・スクールの導入を進めた。 ・コミュニティ・スクールの導入によって、教職員の意識を変えようとしたことが、一宮市の特徴である。 ・早くから実施している地域だが、人事権に関する取り扱いはないとのこと。 ・学校の課題を地域で共有して、地域の方に協力してもらおうというところから始めたので、より地域の実態に応じた進め方をしていた。 ・ねらいとして、地域連携と小中連携ということを掲げている。 <p>【調査を終えて富良野市でも取り組まれない事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールを実施するか否かにかかわらず、管理職、市教委で共通認識を持って、理解をしていないといけない。 ・もし、コミュニティ・スクールに取り組むならば、市教委として基本方針や姿勢を示すことが求められる。 ・また、これまで培ってきた取り組みを、継続できるような枠組みで取り組まれない。 <p>○次回の委員会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域との連携の中で、コミュニティ・スクールはどういう役割を果たすのか。 ・富良野市に置き換えて考えたときに、できることとできないところについて意見交換をして、都市事例調査のまとめとしたい。
--	--

以上、委員会会議録について富良野市議会委員会条例第 27 条の規定により、ここに署名する。

委員長 萩原弘之